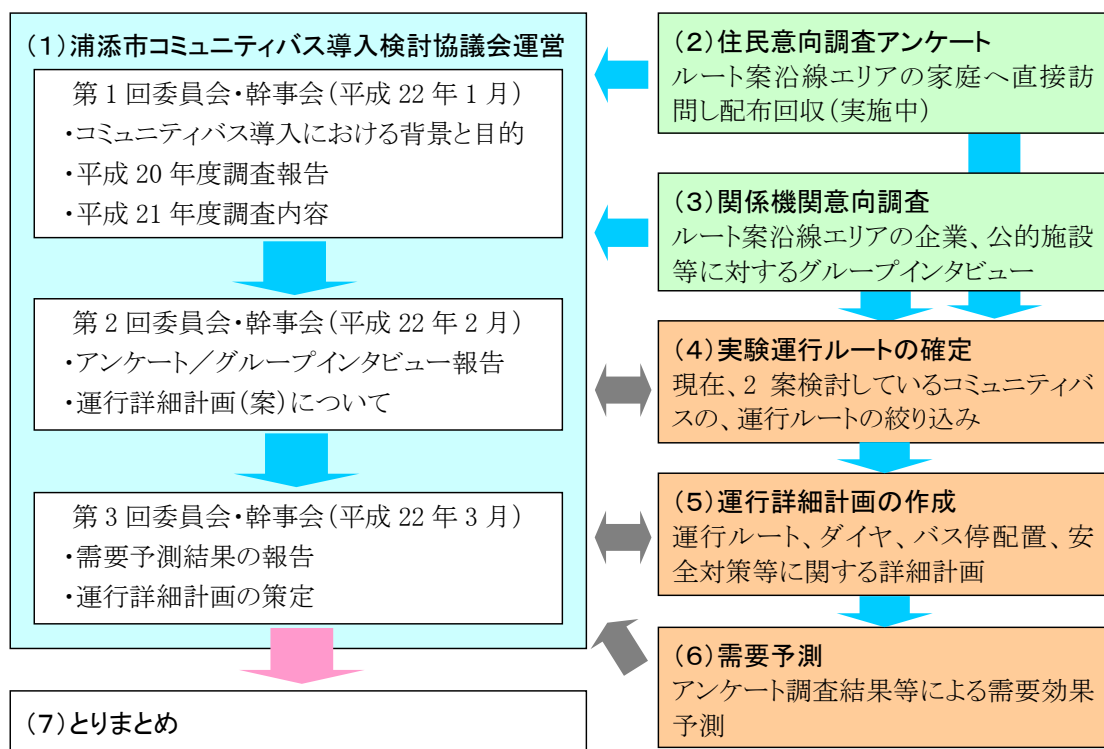


平成21年度調査内容について

1. 調査フロー

平成21年度は、市内へのコミュニティバス導入の可能性について検討を行い、平成22年度に実施予定の沖縄都市モノレール古島駅を起終点とする運行実証実験に向けた運行詳細計画を策定することを目的に、以下のフロー図に示す項目について調査・検討を実施する。（図1参照）

図1 浦添市コミュニティバス導入検討調査フロー



2. 住民意向調査アンケート

本調査は、ルート案ABの沿線住民に対して自宅周辺に新たにバスが運行する事に対する抵抗感や、運行時の利用意向、詳細なニーズ等を把握することで、コミュニティバス導入に関する地域からのコンセンサスを得ると同時に、詳細運行計画への市民意見の反映、運行時の需要予測を行うために実施する。

①調査期間	平成21年12月16日～平成22年1月末頃(12月31日・1月1～3日を除く毎日)
②調査方法	戸別訪問による配布・回収 ※世帯は系統抽出法を基に数軒おきに均等に選定
③設問内容	「参考資料2」アンケート調査票 を参照
④事前告知 広報うらそえ 12月号)及び 浦添市ホーム ページに掲載	

④調査対象地区 (図2参照)	仲間(字仲間・仲間1～3丁目)、安波茶(安波茶1～3丁目)、伊祖(伊祖1～5丁目) 牧港(牧港1～2丁目)、港川1丁目、城間(城間1～4丁目)、 屋富祖(屋富祖1～2丁目)、宮城(宮城1～6丁目)、仲西1丁目、勢理客1丁目、 内間(内間1～2・4～5丁目)、大平(字大平、大平1～3丁目)		
⑤対象地域人口	世帯数：20,884	人 口：53,124	※平成21年10月末現在
⑥必要サンプル数	世帯票：1,048	個人票：4,837	※大字毎に信頼度95%として算出
⑦回収状況	世帯票：2,290	個人票：4,824	※平成22年1月20日時点

※必要サンプル数の算出

一般的なパーソントリップ調査等において求められる精度（相対誤差 20%以下、信頼度 95%）を条件に、統計的な必要サンプル数を算出する際に用いられている右の式により算出。

カテゴリ数（ZK）は年代別を想定し 6 とした。

$$RSD(A) = K \sqrt{\{(ZK-1) \cdot (1-r)/r/N\}}$$

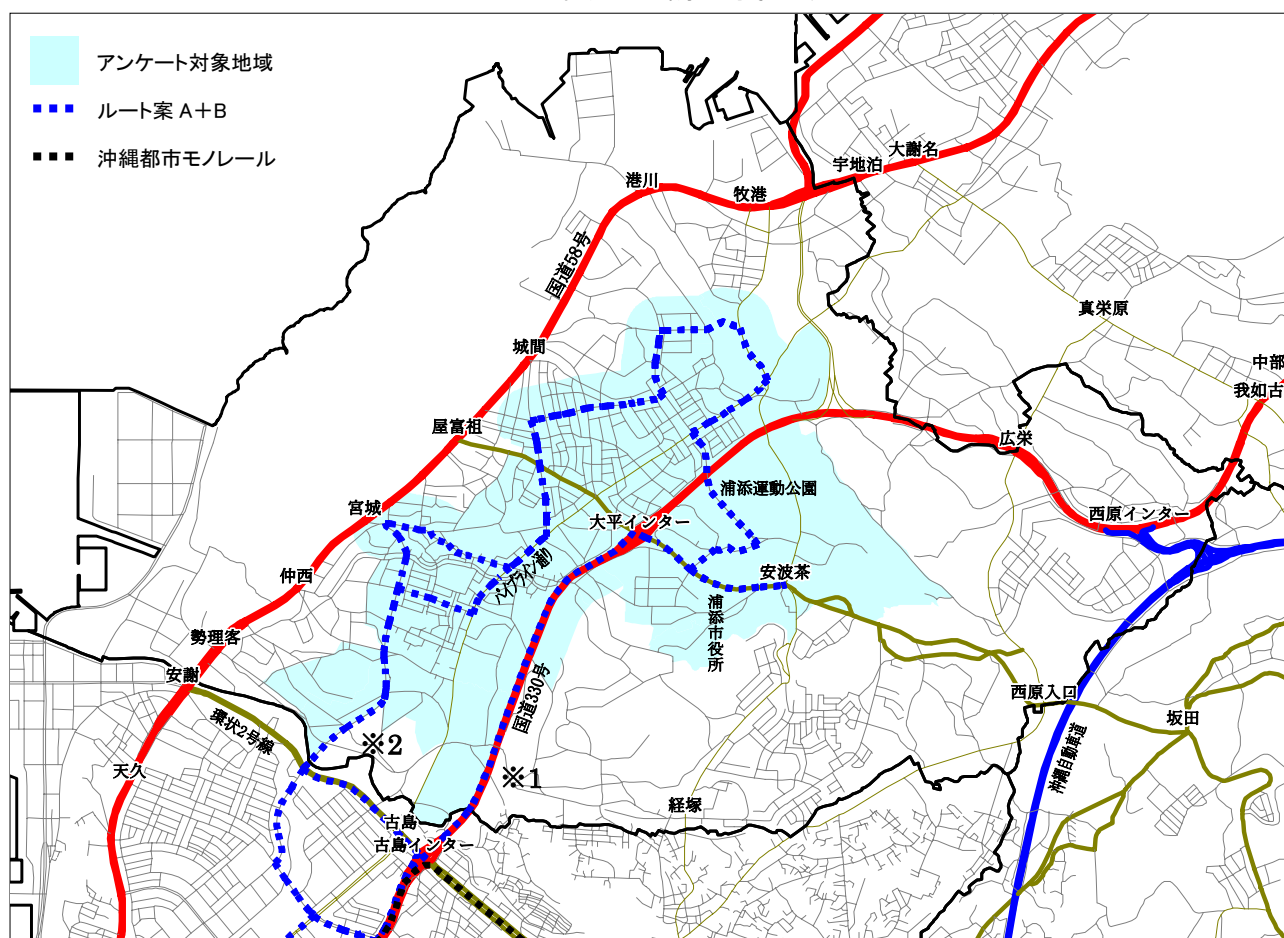
相対誤差率 RSD(A)：0.2

信頼係数 K：1.96

母集団 N：

カテゴリ数 ZK：

図2 住民意向調査対象地域



※1 沢岬(国道330号側)は運行ルート沿線であるものの殆ど民家が存在しないため除外した

※2 内間3丁目は本年度、沖縄県が類似のアンケート調査を実施しているため除外した

3. 関係機関意向調査(グループインタビュー)

本調査は、ルート案AB沿線に立地する企業や通り会等の商業施設関係者、病院や学校等の公共施設関係者に対して、コミュニティバス導入に対する意見を収集する目的で実施する。実施にあたっては、商業施設関係者と公共施設関係者毎にグループインタビューを開催し、収集された意見を整理する。

①実施時期	平成22年2月初旬頃
②調査方法	○グループインタビュー方式 公共施設関係： 病院、福祉施設、学校、文化・スポーツ施設等 商業施設関係： 大型商業施設、商工会、通り会等
③インタビュー内容	○コミュニティバス導入に対する意見・要望 ○利用促進策に関する意見や協力意向について ○協働・地域連携などに関する可能性や参画意向について ○その他(広告媒体としての活用可能性など)

4. 実験運行ルートの確定

前述したアンケート調査の集計・分析結果や、グループインタビューの結果に基づき、昨年度想定したコミュニティバスルート案A、Bそれぞれの需要を予測し、次年度に実証実験として運行するコミュニティバスのルートを確認する。(アンケートによる住民意見に適切に対応するため、A案、B案の単純な二者択一ではなく、柔軟に検討するものとする)

5. 運行詳細計画の作成

前述したアンケート調査やグループインタビューの結果、委員会・幹事会からの意見等を踏まえ、実証実験に向けた以下に示す運行詳細計画書を作成する。

- ① 運行ルート図
- ② バス停位置図
- ③ 運行ダイヤ
- ④ 運賃設定
- ⑤ 運行ルート上における要安全対策箇所とその方策
- ⑥ 広報・利用促進策

6. 需要予測

決定された運行ルート及びサービス水準等を踏まえ、アンケート調査(個人票)の個人属性毎の利用意向や利用頻度等を基に、日あたりの需要数について拡大予測を行う。

図3 拡大予測イメージ

